



夢路もよひて少住下二里子二くさる一

やういふ新らし句お様子作者

越後國——ハ崎敷の川内子小太郎

と中志少おおも頼三奉主お柏崎敷

ち新沼れるゆきお在鎌倉おにおくおたお

ゆきおただかおりおりおれお風おのお心おちお

ゆきおくお程おなくおきおさおくお成おるおゆおくお

又山子息花若友もむさうく在種倉
あまの庭しー、父この世のれを歎
新にいづくをなくは道世あまの去
ほとに故心よは入の母この世本入
流又すーは形見れ志あくをと望係
只今少於里栢崎へと急く何れぬ
海心日りきま袖のぬらと望く

乃行上、

今切の道ハ雪れ去る一は里あれ
村侍雨山れいりまも包行ハ袖はく
まう於様、海もうまのれ峠打はく
越後子まやと暮にきりく急い程
に故心栢崎すーは入の母この世本入
と中さうまうはまのれに飯、海ト
鎌倉より小太郎の来ていられく

ハヤク ^{ミヤ} 何ふ太事と成殿れ下上

あつた ^{トケル} 於う ^{トケル} こそ作是まきハ糸

ツギ ^{トケル} 何と申上る ^{トケル} 妙しく ^{トケル} 文子 ^{トケル} 成り

えり ^{トケル} こそ ^{トケル} 申す ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙

おと ^{トケル} 及 ^{トケル} 申 ^{トケル} 上 ^{トケル} へ ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙

舞 ^{トケル} 舞 ^{トケル} の ^{トケル} 方 ^{トケル} に ^{トケル} 打 ^{トケル} 申 ^{トケル} 上 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙

を ^{トケル} 取 ^{トケル} 申 ^{トケル} 上 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙

ミヤ

あ ^{トケル} よ ^{トケル} と ^{トケル} 花 ^{トケル} 若 ^{トケル} う ^{トケル} と ^{トケル} せ ^{トケル} い ^{トケル} 志 ^{トケル} 上 ^{トケル} 妙

叔 ^{トケル} 父 ^{トケル} 志 ^{トケル} 上 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙

ち ^{トケル} の ^{トケル} 志 ^{トケル} 上 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙

な ^{トケル} ぐ ^{トケル} の ^{トケル} 様 ^{トケル} の ^{トケル} の ^{トケル} 形 ^{トケル} を ^{トケル} 持 ^{トケル} 上 ^{トケル} 妙

何 ^{トケル} の ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙

の ^{トケル} 父 ^{トケル} 乃 ^{トケル} 志 ^{トケル} 上 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙

そ ^{トケル} の ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙 ^{トケル} 妙

ミヤ

トケル

かゝる小遣を面々存心ハ中
穿てまゝ送り起るやたゞ假初
立ゆく様にとりし其主多
子まや成て秋見を乃ろを儀
扱や宛後ハ折當ちいづ事、宣
ひ一番のやりたりませしめ
多幸いふがへさまし 唯少存里

ひるを是東なり思召法寂極ま
人志れまいらうに河陀あり
字やさしそちありとらめ三年
まそを存もわけも法必妙ソ
にうら恵る御心 正理と思へ
るけ寺をやりありし一遣と
覽と 幸にや款てもうみる世

多い... 修行子
出ろ... 母に染
とみ... 心あうらし
う... 恨る
も去... 母に染
らせ... 神佛と祈る
多... 濃國善光寺の

後寺詞
恒僧... 修行子
修行子の契約を...
修行子の修行を...
修行子の修行を...
修行子の修行を...
修行子の修行を...

くわふ心何らし人多やふらびくこ

そふるけれをりたとりよに

妻少及志、くつれ唯指のりれ敢也

たそたそけり子乃行ほともき

糸れみまれ心やく存ぬ覧、空や

人れ才乃あさりなまると誰のり

くしるくことやま思玉れ死るれ

そりきりや清も理のい乃上に

きりし中是もいとくに妻や子の

故とさ及しきりやう身ハ何

をさるれ葉の柏崎を及くるい出

越後の府す着しう及く人めも

わのぬ我姿ソのまき草れソ行途こ

きりぬ心ちあさ衣く遠こと行程

上言

上言

上言

下言

上言

下言

上言

子松月下きくは下り下一下死下ハ下ら下死下て下ハ下里
ま下夕下う下や下我下に下た下く下る下長下ぢ下う下る下け
里下子下故下り下一下身下を下こ下り下ハ下野下邊下れ
き下一下ま下の下里下を下む下か下れ下も下つ下も下ぬ
あ下も下雪下れ下あ下る下の下と下り下ふ下ハ下是下し下と下よ
初下れ下飛下吸下井下の下上下れ下山下を下東下よ下忍下ぢ下り
て下西下り下一下む下く下る下善下見下寺下生下身下の下強下後

如下來下り下の下狂下乱下ハ下さ下く下ま下る下ぬ下志下一下下
わ下ら下れ下し下妻下と下み下り下引下お下り下一下ま下せ

ソウ
り下子下狂下女下河下堂下ハ下内下陣下ハ下ハ下叶下ふ下ま下り

き下と下急下て下出下り下ハ下極下名下悪下人下至下地下方下便

ソウ
唯下称下法下陀下得下生下極下樂下と下一下う下ら下る下う下れ

是下ハ下少下し下き下の下物下を下依下い下所下ら下る下右下様

其下中下を下及下た下ら下る下一下ま下る下を下教下へ

ちかよん 彌陀如来乃 ちちうん びやく
ましまし 寸や 唯心の 淨土と 守時
此善光寺の 如来を 内陣と 極
樂の 九品 上生の 量なり 子女の 宗
まし 寺との 法制 戒ら 及そ も こと 及び
如来乃 依らし ける けり 人々 ち行
まい へ 教へ ち 志 承る 南を 阿弥陀佛

日... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...
釈迦 如来 彌陀
三みり 一筋 下 室を 去り 寺の ち
是る 西本 極樂 上 品 上 生の 内陣 下
い ころ や 糸 らし 光明 遍照 十方 の 誓子
志 承る 寺は 乃 常 の 燈り を 頼む 衆會
仏 承る 人々 夜 會 佛 以 ころ や ころ
し たり 如来 乃 まい いら せ され 作 此

五、^{下丸}直垂ハ別ま^三つまの形見ふ
ま^三遣^三と今ハあ^三るは是^三ぢく^三る
三、^三三^三際^三もあ^三くま^三と淡^三も
三、^三三^三ぢ^三れ^三るは是^三を如^三來^三と森^三ら^三せ
三、^三三^三妻^三ハ後^三生^三者^三所^三をも^三い^三れ^三ら^三り^三や^三と
三、^三三^三思^三ふ^三は^三意^三心^三や^三ふ^三し^三此^三為^三帽^三子^三直^三垂^三
三、^三三^三乃^三直^三ハ^三第^三ゆる^三子^三付^三ても^三く^三く^三す

三、^三三^三弓^三ハ^三三^三把^三と^三や^三ら^三し^三と^三村^三子^三落^三入^三亭^三
三、^三三^三ま^三乎^三れ^三る^三も^三達^三去^三ち^三り^三る^三又^三何^三感^三
三、^三三^三本^三との^三折^三筋^三多^三け^三く^三人^三々^三ハ^三乱^三雑^三す^三
三、^三三^三下^三見^三き^三し^三と^三く^三鑑^三直^三垂^三れ^三の^三衣^三紋^三ハ
三、^三三^三け^三く^三き^三り^三ま^三る^三は^三く^三ア^三リ^三ぬ^三り^三と^三け^三て
三、^三三^三し^三ら^三う^三の^三死^三手^三拍^三子^三人^三々^三も^三や^三こ^三せ^三く
三、^三三^三扇^三を^三つ^三と^三り^三ゆ^三系^三ハ^三胸^三ハ^三水^三ま^三一^三合

心りくろり方ねむしを力れた
まけぬ合乃きしよ呈る海一物樂と
寺ハむるおをーあまたよされ行
道さゆくれぬ終や實乃池れ水切
徳池乃演れ玄妙しくれ玉の床臺
も吉あしく玄たのーいを極めりんふ
寺壽の佛ぢもろりや萬家成佛十方

れ世衆然るー上
まろ今の我おりねりー寺妻の行
法と吉く重乃たるい名山や西玄之
れ波國よむ之けつ淨出の縁
やぢーおをーれるけふるーと称名
かしこの言を曉りて下焼の善免り
やあふそ也や南を海命法陀子然い

上段 上段
まうれへはくわ
はるまは是くをけし
まむはん
たえうゆる夢しと
そねもくたわあ
ち思へともりる婆ハ
しちぬかもわかれ
あつるま 狂人ごり
やいし だりい
能くはきりそのり
おふねとてま乃
ありぬとてし
しちぬかもり
まむはん
まむはん

上段 上段
まうれへはくわ
はるまは是くをけし
まむはん
たえうゆる夢しと
そねもくたわあ
ち思へともりる婆ハ
しちぬかもわかれ
あつるま 狂人ごり
やいし だりい
能くはきりそのり
おふねとてま乃
ありぬとてし
しちぬかもり
まむはん
まむはん

